

# 坂和的台湾旅行と

## 日台・台中・日中

### 問題を考える

坂和 章平

#### 1 坂和的台湾旅行

私のはじめての中国旅行は、①〇〇年八月の大連・旅順・瀋陽旅行。その後、②〇一年八月の西安・敦煌、③〇三年一月の北京、④〇四年三、四月の杭州・紹興・烏鎮、⑤〇四年六月の桂林・深圳・広州、⑥〇四年一月の雲南省の西双版纳・昆明・麗江・大理、と続いた。中国旅行以前も、九五年から九七年にかけて韓国のソウル・プサン・済州島へ数回旅行したが、これは友人主導のゴルフツアーに伴っただけの「お遊び型」。九七年の、返還直前の香港旅行も同様だった。しかし〇〇年から〇五年まで続いた中国旅行は、事前にガイド本を勉強し、朝早くから夜遅くまで歩き回り、メモを片手に写真を撮りまくり、帰国後すぐに詳細な旅行記をまとめるという「勉強型」。旅行回数が増えるにつれてそれが徹底し、今や出発時には既に完成した旅行記の骨格のシナリオを持って、というレベルにまで到達している。「島国ニッポン」のモノサシではとても考えられない、西安の兵馬俑や敦煌の莫高窟そして北京の紫禁城などの巨大さは、まさに「百聞は一見に如かず」の謎どおり、自分の目で現実に見なければ絶対に理解できないもの。また中国は「歴史の宝庫」だから、その土地を訪れて歴史を勉強すればするほど次々とさまざまな興味かわいてくる。小説では司馬遼太郎の『坂の上の雲』や井上靖の

4

「敦煌」を、映画では「敦煌」(八八年)、「ラストエンペラー」(八七年)、「北京の五十五日」(六三年)等を思い出しつつ、さまざまな文献をあさって、旅行記を書くことは私にとって「至福の時」となった。

#### 2 坂和的台湾電影大観

こんな坂和的台湾旅行の体験と〇一年一〇月からスタートした映画評論のお仕事(?)がマッチングした結果完成した本が、『SHOW-H EY シネマールム』のパート5にあたる「坂和的台湾電影大観」(オール関西、〇四年一二月)。これは私が観た中国映画六六本をまとめたものだが、映画評論だけではなく、坂和流巻頭論文として、①中国映画、②坂和的 地図からみる中国映画、③坂和的 中国映画監督列伝、④坂和的 張藝謀VS陳凱歌比較、を掲げている。またこの本の最大の特徴は、中国全土の地図の上に中国映画の舞台をプロットしたこと。この一冊があれば中国映画の本質がすべて理解できること請け合ひの、まさに坂和的「中国電影大観」だ。

#### 3 台湾旅行の動機

〇五年三月一三〜一六日と決めた台湾旅行は、珍しく妻・

長男との家族三人旅行。これは長男が昨年一〇月司法試験に合格したため、今年三月しか一緒に旅行できる時はないだろうと意見が一致した結果で、昨年一二月に申し込んだもの。しかし「その日」が近づくとつれて目立ったのは、三月五日から北京で開催された第一〇期全国人民代表大會(全人代)での対台湾問題。全人代では、①〇五年の経済成長率を八%前後とする、②持続的経済発展に向け「調和社会」を建設する、等の大方針が示されていたが、最大の問題は「反国家分裂法」の制定。既に台湾においては、〇四年三月の総統選挙における民進党陳水扁総統再選と台湾独立派の伸びを受けて、台中関係は緊張度を増していたが、反国家分裂法の制定はその集大成ともいえるもの。「不穏当発言」かもしれないが、私は近いうちに「北朝鮮の崩壊」(武装蜂起、日本へのミサイル発射?)と「台中戦争の勃発」は不可避と見ている人間の一人。〇八年の北京オリンピックまでは大丈夫だろうと思いつつ、そろそろヤバイのでは、行くなら今のうち!というのが今回の台湾旅行の大きな動機だった。〇五年四月現在大きな話題となっている村上龍の新作小説『半島を出よ』(幻冬舎)では、北朝鮮のコマンド九名が開幕戦の福岡ドームを武力占拠し、その二時間後には四八四名の特殊部隊が来襲し福岡市中心部を制圧するという恐ろしいストーリーが展開される。そして

5

その後は...?これは今から六年後の二〇一一年四月のことだ。こう考えると、私の台湾旅行は実にいいタイミング??

#### 4 西安・敦煌旅行と靖国参拝

私が西安・敦煌旅行に行ったのは〇一年八月九〜一四日のこと(〇二年四月『法苑』一七七号参照)。〇五年四月時点の小泉内閣最大の課題は、「改革の本丸」である郵政民営化法案の行方。政府と自民党のバトルは激しさを増し、郵政改革=郵政民営化は本当にできるのかそれとも骨抜きになってしまふのか、また小泉内閣は存続できるのかそれとも解散・総選挙となるのか、というギリギリの局面を迎えることになりそう(当然、この原稿が読まれる頃にはそれなりの結論が出ているはず)。小泉内閣が発足したのは〇一年四月で今から四年前のこと。そして絶大な人気をもつて国民に迎えられた小泉総理が掲げた公約は、八月一五日の靖国神社参拝。しかし「その日」が近づくとつれて中国や韓国からの攻撃が強くなり、遂に小泉総理は二日前倒しという「政治的判断」の下に、〇一年八月一三日に靖国神社参拝を行った。西安・敦煌旅行を満喫し数日間日本のニュースから離れていた私が、帰国の飛行機内で読んだ最大ニュースがこれ。こんな節目の時に西安・敦煌旅行に行ったのだから、その日を忘れることなどありえない。

6

#### 5 「反国家分裂法」制定

今回の台湾旅行では、出発前に「反国家分裂法」の制定が確定視され、さまざまな論評が展開されていた。私たちが一日、二日、三日のあわただしい見学を終え、一日の朝ホテルで台湾の新聞を読むと、三月一四日全人代では全員一致で「反国家分裂法」が制定されたことが報道され、それに対する台湾の人たちの抗議の記事が一面に。そしてその抗議のため、直ちに陳水扁総統自ら参加する一〇〇万人規模のデモを三月二六日に挙行することが決定された。

#### 6 ガイドさんは超親日派

ガイドの呉さんは一九四九年三月一六日生まれ。私たちのツアー案内中に五六歳の誕生日を迎えたが、彼は同年一月二六日生まれと同じ歳。美人ガイドを期待していたスケベおやじ(?)としてはちょっと残念な面もあったが、やはりガイドは姿かたちではなく内容が大切。呉さんの話は経験豊富なだけに充実しており面白いもの。とりわけ歴史に興味をもち、具体的な知識や情報に貪欲な私のような旅行者にはピッタリのガイド。日清戦争が終了した一八九五年以降始まった日本による台湾統治、一九四五年の日本敗戦、国共内戦を経て一九四九年以降始まった国民党の蒋介石による台湾統治等の歴史を、詳しく説明してく

れた。そしてさらに、映画『国姓爺合戦』(〇一年)、『坂和的台湾電影大観』(一五五頁参照)が登場する、一七世紀に台湾からオランダを追い払った英雄で、近松門左衛門が原作を書き一七二五年に大坂の竹本座で初演された浄瑠璃劇『国姓爺合戦』の英雄「鄭成功」の姿さらには台湾の治水に絶大な貢献をした日本人技師八田與一の姿などをイキイキと語ってくれた。また台湾の前総統である李登輝氏の提唱によって一九九〇年に建立され、多くの日本人の英霊が祀られた宝覺寺にある英魂観音亭では、詳細な日本軍(人)と台湾とのあり方についても...。他方、「台湾にも地震はあるの?」というノーテンキな質問に対しては、「ありますよ。温泉のある国はどこでもあります」とかなリムキになって解説。私は金城武と梁詠琪主演の純愛映画『タインレフト タインライト』(〇三年)、『シネマールム』(一六七頁参照)によって、九九九年九月二日に台湾を襲ったマグニチュード七・六の巨大な「集集(チーチー)地震」のことをよく知っていたし、九五年一月一七日の阪神・淡路大震災によって突然大テマとなった震災復興もちづくりに関与した弁護士として、台湾の復興まちづくりに大きな興味を持っていたから、力を込めた呉さんの解説に大きくうなずいた。呉さんのお父さんは元日本海軍軍人で、昨年八五歳で亡くなったとのこと。だから「台湾は中国

のお世話になったことなど一度もない!」「台湾は日本と一緒になった方がいい!」という刺激的な発言にも十分納得。そして「私も反国家分裂法に反対するデモに参加したい」と言っていた呉さんはきつと、一〇〇万人を超えたいといわれる三・二六デモの隊列に加わっていたことだろう。

#### 7 「反日デモ」の行方は

〇五年三月の鳥根県による「竹島の日」条例の制定や四月の「教科書問題」の浮上を契機として突然日韓の溝が大きくなりはじめたと思ったら、同じ教科書問題や尖閣諸島領有権問題や東シナ海ガス田開発問題に絡んで、中国でも突然反日機運が高まってきた。これには日本の国連安保理常任理事国入りについての反発も...。そして四月九日には北京で大規模な反日デモが展開され、日本大使館だけでなく日本のコンビニや料理店に投石され、日本人留学生が暴行を受けるという「大事件」が発生した。この反日デモは一〇日に広州、深圳に広がり、さらに一六日には何とあの上海でも数万人規模の反日デモが挙行され、同様のデモが杭州、天津、瀋陽でも...。そしてこれはさらに拡大の様ちづくりに関与した弁護士として、台湾の復興まちづくりに大きな興味を持っていたから、力を込めた呉さんの解説に大きくうなずいた。呉さんのお父さんは元日本海軍軍人で、昨年八五歳で亡くなったとのこと。だから「台湾は中国

#### 8 北京オリンピックは

北京は今、〇八年の北京オリンピック開催に向けた「都市改造」に大わらわ。弁護士生活三一年のうち、最初の一〇年間を公害問題に、その後の二一年間を都市問題に取り組んできた私の目には、北京の公害問題と都市問題は入っトてはない。巨大なスタジアムをつくりそれらをバカ広い道路で結んでいく計画が急ピッチで進んでいるが、中国大陸の各地を結ぶ超高速鉄道(新幹線)構想はともかく、果たしてそのような北京の都市改造は本当に望まれる姿なのだろうか。また数年前から始まった西安を中心とする「西部大開発」も沿岸部と内陸部の格差を縮めるに十分な成果をあげているとは到底思えない。国家的威信にかけて、〇八年までには必ずオリンピック用の諸設備を完成させるだろうが、果たして人間の気持は...。〇四年七月のサッカーワールドカップ杯における重慶での騒動や〇五年四月の北京、広州、深圳における反日デモ騒動に照らせば、「人間の気持」からみた北京オリンピックの開催は既に黄信号がついているのでは...? 「まだ三年もある」のか、それとも「もう三年しかないのか」は人によって異なるだろうが、この三年間に日中両国の国民の英知の結果がなければ、果たして〇八年の北京オリンピックは...?

7

#### 8 北京オリンピックは

北京は今、〇八年の北京オリンピック開催に向けた「都市改造」に大わらわ。弁護士生活三一年のうち、最初の一〇年間を公害問題に、その後の二一年間を都市問題に取り組んできた私の目には、北京の公害問題と都市問題は入っトてはない。巨大なスタジアムをつくりそれらをバカ広い道路で結んでいく計画が急ピッチで進んでいるが、中国大陸の各地を結ぶ超高速鉄道(新幹線)構想はともかく、果たしてそのような北京の都市改造は本当に望まれる姿なのだろうか。また数年前から始まった西安を中心とする「西部大開発」も沿岸部と内陸部の格差を縮めるに十分な成果をあげているとは到底思えない。国家的威信にかけて、〇八年までには必ずオリンピック用の諸設備を完成させるだろうが、果たして人間の気持は...。〇四年七月のサッカーワールドカップ杯における重慶での騒動や〇五年四月の北京、広州、深圳における反日デモ騒動に照らせば、「人間の気持」からみた北京オリンピックの開催は既に黄信号がついているのでは...? 「まだ三年もある」のか、それとも「もう三年しかないのか」は人によって異なるだろうが、この三年間に日中両国の国民の英知の結果がなければ、果たして〇八年の北京オリンピックは...?

8

#### 9 北京オリンピックは

北京は今、〇八年の北京オリンピック開催に向けた「都市改造」に大わらわ。弁護士生活三一年のうち、最初の一〇年間を公害問題に、その後の二一年間を都市問題に取り組んできた私の目には、北京の公害問題と都市問題は入っトてはない。巨大なスタジアムをつくりそれらをバカ広い道路で結んでいく計画が急ピッチで進んでいるが、中国大陸の各地を結ぶ超高速鉄道(新幹線)構想はともかく、果たしてそのような北京の都市改造は本当に望まれる姿なのだろうか。また数年前から始まった西安を中心とする「西部大開発」も沿岸部と内陸部の格差を縮めるに十分な成果をあげているとは到底思えない。国家的威信にかけて、〇八年までには必ずオリンピック用の諸設備を完成させるだろうが、果たして人間の気持は...。〇四年七月のサッカーワールドカップ杯における重慶での騒動や〇五年四月の北京、広州、深圳における反日デモ騒動に照らせば、「人間の気持」からみた北京オリンピックの開催は既に黄信号がついているのでは...? 「まだ三年もある」のか、それとも「もう三年しかないのか」は人によって異なるだろうが、この三年間に日中両国の国民の英知の結果がなければ、果たして〇八年の北京オリンピックは...?

9

#### 10 北京オリンピックは

北京は今、〇八年の北京オリンピック開催に向けた「都市改造」に大わらわ。弁護士生活三一年のうち、最初の一〇年間を公害問題に、その後の二一年間を都市問題に取り組んできた私の目には、北京の公害問題と都市問題は入っトてはない。巨大なスタジアムをつくりそれらをバカ広い道路で結んでいく計画が急ピッチで進んでいるが、中国大陸の各地を結ぶ超高速鉄道(新幹線)構想はともかく、果たしてそのような北京の都市改造は本当に望まれる姿なのだろうか。また数年前から始まった西安を中心とする「西部大開発」も沿岸部と内陸部の格差を縮めるに十分な成果をあげているとは到底思えない。国家的威信にかけて、〇八年までには必ずオリンピック用の諸設備を完成させるだろうが、果たして人間の気持は...。〇四年七月のサッカーワールドカップ杯における重慶での騒動や〇五年四月の北京、広州、深圳における反日デモ騒動に照らせば、「人間の気持」からみた北京オリンピックの開催は既に黄信号がついているのでは...? 「まだ三年もある」のか、それとも「もう三年しかないのか」は人によって異なるだろうが、この三年間に日中両国の国民の英知の結果がなければ、果たして〇八年の北京オリンピックは...?

10

#### 11 北京オリンピックは

北京は今、〇八年の北京オリンピック開催に向けた「都市改造」に大わらわ。弁護士生活三一年のうち、最初の一〇年間を公害問題に、その後の二一年間を都市問題に取り組んできた私の目には、北京の公害問題と都市問題は入っトてはない。巨大なスタジアムをつくりそれらをバカ広い道路で結んでいく計画が急ピッチで進んでいるが、中国大陸の各地を結ぶ超高速鉄道(新幹線)構想はともかく、果たしてそのような北京の都市改造は本当に望まれる姿なのだろうか。また数年前から始まった西安を中心とする「西部大開発」も沿岸部と内陸部の格差を縮めるに十分な成果をあげているとは到底思えない。国家的威信にかけて、〇八年までには必ずオリンピック用の諸設備を完成させるだろうが、果たして人間の気持は...。〇四年七月のサッカーワールドカップ杯における重慶での騒動や〇五年四月の北京、広州、深圳における反日デモ騒動に照らせば、「人間の気持」からみた北京オリンピックの開催は既に黄信号がついているのでは...? 「まだ三年もある」のか、それとも「もう三年しかないのか」は人によって異なるだろうが、この三年間に日中両国の国民の英知の結果がなければ、果たして〇八年の北京オリンピックは...?

11